

吉無田水源下流500m付近でヤマメを放流する子どもたち



渓流の女王を水源に放流

ヤマメ成魚を放流

熊本名水百選で知られる吉無田水源で8月5日、渓流の女王ヤマメを放流しました。緑川漁業協同組合(坂本猛組合長)が環境保全や魚の繁殖を目的に行い、今年で5回目。今年は、上天草市と御船町のライオンズクラブ主催のキャンプに参加する小中学生約100人が、手のひらサイズのヤマメ約5000匹を放流しました。滝尾小6年の川端史香さん(滝尾)は、「水源の水は冷たくてきれい。ヤマメがうれしそうに川を泳いでいった」と話していました。緑川流域でのヤマメは、毎年3月1日から12月31日までが漁期となっています。

藤田名人が最年少で初優勝

こども将棋大会

こども将棋大会が8月8日、カルチャーセンターで開催され、小中学生8人が対局を楽しみました。町将棋愛好会(駄本祥一会長)が心身の健康や集中力の向上を目的に開いて、今年で3回目。大会は予選パート総当たり方式が採用され、大人顔負けの読みと駆け引きの心理戦を展開しました。優勝は将棋歴2年で抜群の攻めを見せた、木倉小2年の藤田康暉くん(木倉)が三代目名人の称号を最年少で手にしました。藤田くんは、「優勝は狙っていた。練習してもっと強くなりた」と話していました。



決勝で真剣勝負を繰り広げた藤田康暉くん(左)と大野拓海くん(右)

犯罪と非行のない社会願う

上益城地区保護司会啓発パレード

「明るい社会づくり運動」が7月6日、御船警察署管内で行われ、啓発パレードを展開しました。この運動は、犯罪や非行の防止、罪を犯した人の更生への理解、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な取り組みとして、今年で61回目です。上益城地区保護司会御船分会(浦田博会長)と御船地区更生保護女性会(金澤順子会長)は、益城町役場を出発して管内4町を訪問。各町長に江田五月法務大臣と蒲島郁夫熊本県知事からのメッセージを手渡した後、車に分乗して各地を巡回しながら、明るい社会づくりを呼びかけました。さらに7月21日、御船町保護司会(眞淵正信会長)と御船地区更生保護女性会が、御船町内全域を車で巡回して啓発パレードを実施。町内の各スーパー前で街頭啓発を行いました。



役場玄関前で山本町長にメッセージを手渡す浦田会長

出来上がった料理をみんなで試食



アイデアメニューで楽しく給食を

町献立研究会調理実習

町献立研究会が8月1日、町保健センターで学校給食の新メニューを試作しました。同研究会は、町内の小中学校に勤務する栄養教諭や給食員などで構成され、毎月1回の献立会議や夏休み期間を利用した調理実習を開催しています。調理実習では、各学校の担当者が持ち寄ったアイデアメニューを実際に調理。水前寺菜、ねぎや大根など御船産野菜をふんだんに使い、9品目を試食しました。御船小の梅田瑠美子栄養教諭は、「今日試作した料理をアレンジして、給食メニューに取り入れていきたい」と話していました。

恐竜と過ごした夏の思い出

パレオキャンプ

子どもたちに人気の夏休み企画「パレオキャンプ」が8月1日から8月2日まで開校しました。地域の自然や科学への関心などを図る目的で、恐竜博物館が開いたものです。県内外から小学生46人が参加して、化石ひろばの体験学習、ジオラマづくり、夜の恐竜博物館見学、展示室での就寝など、恐竜一色の2日間を満喫しました。参加者で高木小4年の佐藤寧瑠さん(高木)は、「キャンプに初めて参加した。テトリアアサノヤベシンの貝化石を見つけてうれしかった」と思い出の夏を話していました。



化石ひろばで化石採集に熱中する子どもたち

パソコン操作に奮闘中です

高齢者パソコン教室

高齢者パソコン教室が8月3日、カルチャーセンターで開かれ、パソコン操作を学びました。これは認知症予防の効果を検証するモデル事業で、町地域包括支援センターが主催したものです。受講者は60歳以上の20人で、ほとんどがパソコン初心者。文書入力、写真画像の取り込み、インターネットの使用方法などを全13回の教室で修得します。スタッフには、御船高校生も夏休み期間を利用して受講者をサポートしました。高校1年の奥村菜理さん(御船)は、「教えることで自分も勉強になる。理解してもらえて、『ありがとう』といわれるとうれしい」と笑顔で話していました。受講者の井手國光さん(高木)は、「パソコン操作を高校生が教えてくれて助かる。受講後は、同窓会名簿や年賀状を作ってみよう」と意気込みを語っていました。



御船高校生にパソコン操作を習う受講者